

# 第6回新市庁舎のあり方に関する市民会議 (概要報告)

日時	令和4年11月12日(土) 午後1時30分～3時
場所	盛岡市勤労福祉会館大ホール
参加者	26人
内容	報告会
アドバイザー	岩手大学理工学部教授 南 正昭さん
ファシリテーター	ネクステージ 代表 大高 智佳子さん 株式会社赤澤号 赤澤 徳俊さん

「第6回新市庁舎のあり方に関する市民会議(報告会)」が、11月12日(土)に開催されました。

26人の皆さんが参加し、これまで意見交換してきたことを発表しました。報告会には、別途開催している有識者等懇話会の委員、市議会議員、盛岡市職員や傍聴を希望された市民の方など、多くの方に聞いていただきました。

市民会議は、この報告会をもって計6回の会議が終了しました。第6回市民会議(報告会)の概要をお知らせします。

## 市民会議の趣旨

盛岡市役所の本庁舎は、建設後60年を経過して老朽化が進むなど、新市庁舎のあり方を考えていかなければならない時期にきています。今後、庁舎の課題や希望について広く市民の皆さんの意見を伺いながら検討を進めるため、市民会議を開催することとしました。

市民会議は、ワークショップ形式で意見を出し合い、新しい市庁舎のあり方や希望などを整理します。結論を導き出すことを目的とはせず、さまざまな可能性を広く考えます。ここで整理された意見などは「報告会」で発表しました。

## ○ 市民会議の概要説明

市民会議の目的や開催状況などについて、概要説明を行いました。

(発表のスライドと説明内容は別添のとおりです。)



## ○ 第1回市民会議の報告

「今の市庁舎の課題を挙げてみよう」をテーマに、今の市庁舎の良いところと課題を整理し発表しました。

良いところは、①立地性、②交通アクセスの利便性、③歴史・文化、④庁舎内の環境、⑤庁舎外の環境、課題は①庁舎の分散、②交通アクセスの課題、③庁舎内の環境、④庁舎外の環境、⑤市民サービスのそれぞれ5項目に分類、整理しました。

(発表のスライドと説明内容は別添のとおりです。)



### 《有識者等懇話会委員の意見》

#### ・佐々木委員

今の市庁舎良いところとして、歴史や町並みなどを丁寧に整理していただきました。課題については、新市庁舎の整備を待たずとも、知恵や工夫で今からでも解決できることがありますので、日々取り組んでいただきたいと思います。

#### ・今野委員

市民の皆さんの盛岡への愛着や市役所の役割に対する関心の深さを感じました。今の市庁舎を大切に使用してきたことを次世代に継承してほしいと思いますし、それが今後のまちづくりにつながっていくと感じました。

## ○ 第2回市民会議の報告

「「こんな市庁舎だったらいいな」を考えよう」をテーマに、新市庁舎に求めること発表しました。

新市庁舎のコンセプトを、①「歴史・文化・自然が優しさを育む『幸せ創造拠点』」、②「新しい/優しい/安心/デザイン」、③「おでんせ！誰もが使いやすく開かれた市庁舎」、④「人に優しい・人が潤う・ひらけた街」、⑤「100年先のシンボルとしての市庁舎」の5つにまとめ、それぞれのコンセプトに沿った具体的な提案を行いました。

(発表のスライドと説明内容は別添のとおりです。)



## 《有識者等懇話会委員の意見》

### ・小野田委員

多様なコンセプトをもとに丁寧な話し合いがなされていたと思います。100年先のシンボルとなるには、プロジェクトに関わる人たちが何を大切と思うか、何に価値を求めるかの強い思いが必要です。皆さんの強い思いが感じられ感銘を受けました。

### ・倉原座長

5つのコンセプトが示されましたが、「優しさ」が一つのキーワードになると思いました。また、用が無くても行きたくなるという考え方はこれからの「公共の場」、本当の意味での「公共」とは何かという問いかけをしていただいたと感じました。

## ○ 第3回市民会議の報告

「市役所窓口の未来を想像（創造）しよう」をテーマに、新市庁舎の窓口機能に求めること発表しました。

「スマイル」というキーワードとともに、市民が利用しやすく、職員が働きやすい市役所を目指し、ハード面やDX（デジタル・トランスフォーメーション）などのソフト面における具体的な提案がありました。

（発表のスライドと説明内容は別添のとおりです。）



## 《有識者等懇話会委員の意見》

### ・高橋委員

未来を想像して創り上げるという素晴らしい内容でした。リアルな窓口に来る人とデジタルの窓口を利用する人の両方のことを考えられていて、多様な人々の幸福につながるような窓口の整備が必要だと改めて感じました。

### ・小枝指委員

スマイルというテーマがありました。パソコンの画面越しではスマイルを感じるものが少なくなってきたと感じていましたので、今後は対面とデジタルの使い分けも必要だなと思いました。

## ○ 第4回市民会議の報告

「求められる市庁舎のかたちを考えよう～市庁舎に求められる立地条件とふさわしいエリアとは～」をテーマに、市庁舎の立地に関する考えを整理しました。

防災・災害対策、環境・土地、まちづくり、交通アクセスといった立地条件や整備エリア候補についての考えを発表しました。

（発表のスライドと説明内容は別添のとおりです。）





## 《有識者等懇話会委員の意見》

### ・佐々木委員

「その他のエリア」の提案があり面白いと思いました。また、エリア決定に際しては透明性のある説明を、との話がありました。これに加えて整備後の改修や何十年後かの建て替えなど、今後のストーリーの議論も必要になってくると思います。

### ・小野田委員

市役所に求める機能を発展させるためには、どの地域に整備するのがよいかという難しい課題だったと思います。整備エリアについては、メリットとデメリットを明確にした比較をすることが必要で、市民に丁寧な説明をしていくことが大切だと思いました。

## 《有識者等懇話会倉原座長の挨拶》

非常に共感しました。限られた時間の中で熱心に議論されたことを感じましたし、報告内容は私たちの検討材料とさせていただきたいと思います。

このように市民の皆さんが話し合う場や共有する場があることが、盛岡市の今後の財産になると思います。

今後、計画や設計をする上で想像力が大切になってきますが、そのための大事なコンセプトを示していただいたと思いますし、それをどう具現化してくかが今後の課題になってくると思います。先ほど、「優しさ」というキーワードにふれましたが、有識者等懇話会では市民の目は厳しいという話もしております。そうした厳しさのある優しさも大切です。

これからも皆さんと一緒に考えていければと思います。



(倉原有識者等懇話会座長挨拶)

## ○ アドバイザー講評

岩手大学理工学部教授の南正昭さんから講評をいただきました。

市民会議に参加した皆さんが、熱心な議論を積み上げてきました。この熱心さに驚きました。このようなことができるのは、盛岡の「市民参画」の実力であり、素晴らしいことだと思います。

議論は、大きな理念や方針をたて、それにいくつもの項目を付け加えていくという方法でしたが、それによりいくつかの大事な切り口を出していただきました。たくさんの提案がありましたが、「優しさ」や「誰もが」という言葉が繰り返し出てきたことに大きな意味があり、今後の方針として受け止めていただきたいと思います。

盛岡市民の市庁舎への想いを形にするのはこれからです。市民の言葉一つ一つを大切に、その言葉がいろいろな場面で形として反映されるように行政や有識者等懇話会の皆さんに議論を詰めていただきたいと思います。



(南市民会議アドバイザー講評)